

博多とアジアの映画 116

松浦 仁

った。ではこの年、九州の封切館である中洲の映画館ではどんな正月映画が公開されたのだろうか。

東宝が運営する福岡宝塚会館では、宝塚劇場で「雪の断章」と「姉妹坂」、スカラ座で「バックトゥザフューチャー」、シネマ1でニュー大洋と同じ「コクー」と「ポリス・ストーリー 香港国際警察」、シネマ2で福岡東宝と同じ「サンタクローズ」と「トムとジェリー」が公開された。松竹の直営館、福岡松竹では「男はつらいよ 柴又より愛をこめて」、ピカデリー1では「コーラスライン」が公開された。東映の直営館である福岡東映では「お年玉東映まんがまつり」で「キン肉マン 晴れ姿!正義超人」「キヤブテン 翼危うし全日本 Jr.」「ゲゲゲの鬼太郎」の3本を公開、東映グランドは「野蛮人のように」と「ビーバップ・ハイスクール」、東映パラスでは「ロッキーフュエスティバル」と銘打って「ロッキー1」「ロッキー2」が公開された。そして、大洋劇場では「グーニーズ」が公開された。

これらのラインナップでアジア映画はシネマ1とニュー大洋で公開された「ポリス・ストーリー 香港国際警察」の1作品だけだった。「ポリス・ストーリー 香港国際警察」は、1985（昭和60）年にゴールデン・ハーベスト（嘉禾

電影有限公司）が製作した香港映画で、ジャッキー・チェンは主演だけでなく、監督・脚本・武術指導を兼ねていた。（本誌「博多とアジアの映画」(15)参照）併映の「コクー」は1985（昭和60）年に20世紀フォックスが製作・配給したアメリカのSFファンタジー映画で、フロリダの老人ホームで暮らす3人の老人たちと地球に來訪したエイリアンとの交流を描いている。

「ポリス・ストーリー 香港国際警察」は東宝東和が配給して前年の12月14日から全国公開された。福岡では、シネマ1で12月14日から翌年の1月24日まで、ニュー大洋で12月14日から翌年の2月1日まで上映された。その後、志免映劇で5月17日から5月30日まで「イヤー・オブ・ザ・ドラゴン」との2本立てで上映された。「イヤー・オブ・ザ・ドラゴン」は、1985（昭和60）年にデイン・デアウレンティイス・カンパニーとメトロ・ゴールドウィン・メイヤーが製作し、松竹富士が日本国内に配給したアメリカ映画で、ニューヨークのチャイナタウンを舞台にベトナム戦争帰還兵の刑事とチャイニーズ・マフィアの対決を描いたバイオレンス映画だった。タイトルの「イヤー・オブ・ザ・ドラゴン」は「辰年」という意味。さらに、「ポリス・ストーリー 香港国際警察」はステ

は協力して猛特訓を積み醒拳を極めて、チン兄弟に仇討ちを挑み、見事打ち勝ち。」

「ジャッキー・チェンの醒拳」は、ロー・ウェイ（羅維）の製作総指揮で、羅維影業有限公司（Lo Wei Motion Pictures ロイ・ウェイ映画社）が製作したのだが、1980（昭和55）年に主役のジャッキー・チェンは数カットを撮り終えて突如出演をとりやめてしまった。そのためロー・ウェイは、「クレージーモンキー笑拳」のNGカット、撮影が中止となった未完の『鬼手十八翻』のカット、「拳精」と「龍拳」の本編カットを流用し、また、ジャッキー・チェンの容姿、体形が似た俳優による追加撮影をおこなって不足部分を補いジャッキー・チェンの主演映画として完成させた。また、「ヤングマスター 師弟出馬」のシーンと「クレージーモンキー笑拳」の未使用シーンを使用して完成させたもうひとつのバージョンもあった。

「クレージーモンキー笑拳」（1979）はジャッキー・チェンが立ち上げた個人プロダクション、豊年影業公司（Goodyear Movie Company）グッドイヤー映画社）のジャッキー・チェン主演の第1回作品で、ジャッキー・チェンの初監督作品だった。「拳精」は1978（昭和53）年に羅維影業有限公司（

Wei Motion Pictures、ロー・ウェイ映画社）が製作したジャッキー・チェン主演映画。「龍拳」は、1979（昭和54）年に製作されたジャッキー・チェン主演映画で、監督・製作はロー・ウェイだった。「ヤングマスター 師弟出馬」は1980（昭和55）年に製作された、ジャッキー・チェンの嘉禾電影有限公司（Golden Harvest、ゴールデン・ハーベスト）移籍第1回監督・主演作品だった。では、なぜジャッキー・チェンは出演を取りやめ、ロー・ウェイはロー・ウェイが版權を保有しているとはいえ、ジャッキー・チェンが主演している過去のフィルムを流用したのか。ジャッキー・チェンとロー・ウェイとの因縁めいた複雑な関係があった。

1976（昭和51）年、ジャッキー・チェンは、ロー・ウェイが立ち上げたロー・ウェイプロダクションと映画出演契約を結ぶ。ロー・ウェイはジャッキー・チェンをブルース・リーの後継者として、「拳精」「龍拳」（製作から数年してジャッキー・チェンの人気が高まった後に日本でも公開）などシリアスなカンフー映画を製作し続けるのだが、



いずれもヒットしなかった。配給会社がシリアスなカンフー映画を買いたたため公開されない作品もあった。ジャッキー・チェンは、同じような作品を製作し続ける強引なロー・ウェイに当初から不信感を抱き、ロー・ウェイも撮

ーションシネマで6月20日から6月27日まで上映された。

1986（昭和61）年、ジャッキー・チェン主演映画がもう1本公開された。1983（昭和58）年製作の「龍騰虎躍」（英語題は「The Fearless Hyena II」）で「クレージーモンキー笑拳」（1979）のシリーズ2作目という意味になるのだが、1作目の原題は「笑拳怪招」でシリーズではない。で、日本では3年後に東映が配給して「ジャッキー・チェンの醒拳」という邦題で公開された。『清朝末期の広東。醒拳の達人だったチン兄弟は秘術鬼影の術を操る天鬼拳の極悪兄弟一派に命をねらわれ、それぞれ幼い息子を連れて逃亡をはかる。十数年後、チン兄弟の兄・ペイは別れたままの弟を探していた。青年に成長した息子のヤスは武術には一向に興味を示さず、ペイをがっかりさせていた。一方、ペイの弟ナンも息子ロン（ジャッキー・チェン）と無事に逃げのびていたが、苦しい生活が続いていた。ロンも父から醒拳を伝授されるが、ギャンブルとケンカに明け暮れる日々を過ごしていた。ある日、街でチン兄弟に見つかり父を殺されてしまったロンは、伯父のペイをたよって物乞いの家を訪ねるが、そこにもチン兄弟があらわれ、ペイもまた無惨に殺されてしまう。残されたロンとヤス

影現場で要求に思うように応えられないジャッキー・チェンの不器用な演技が不満で、たびたびジャッキー・チェンに怒りをぶちまけ、ふたりの対立は深刻になっていった。

1978（昭和53）年、ジャッキー・チェンはロー・ウェイプロダクションから新興のシージナル・フィルム社に出向して、「蛇形刁手」（1978、邦題は「スネークモンキー蛇拳」と「酔拳」（1978、邦題は「ドラクモモンキー酔拳」）に主演した。コミカル路線に転じた2作品は大ヒットし、一躍ジャッキー・チェンの人気が高まった。ロー・ウェイは「蛇形刁手」がヒットしたことでシージナル・フィルム社とのジャッキー・チェン主演作2本を製作するという契約を無視して、2本目のシージナル・フィルム社製作の「酔拳」の撮影と同時に進行でジャッキー・チェン主演作「酔拳」をロー・ウェイ監督で製作した。ところが、「酔拳」は興行的に失敗し、ジャッキー・チェンはロー・ウェイプロダクションとの契約は続いていたが、他社で製作した「蛇形刁手」と「酔拳」がヒットしたことで、香港最大のゴールデン・ハーベスト社から移籍を打診される。次号に続く

Ⅱ 図版は「ポリス・ストーリー 香港国際警察」Ⅱ